

平成26年度 学校評価に対する最終報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。</p>	<p>授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>A</p>	<p>“授業の目標や学習内容を理解できていると思う”は87%で前期に比べて15ポイント上昇した。「ICT機器を用いた工夫した授業」をテーマに研究授業を重ねたり、授業の始めにねらいや流れを明確に示すことを共通理解として徹底したりしていることが結果となっていることが考えられる。次年度は、授業の理解に加えて、その知識や思考力の定着度ををはかる必要がある。</p>
	<p>② 生徒が基本的な授業態度で学習に集中し、主体的に取り組むようにする。</p>	<p>授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>B</p>	<p>“授業に意欲的に参加している”は76%で前期に比べて7ポイント上昇した。これは“考える時間や発言の機会がある”が前期より14ポイント上昇したことに連動したと考えられる。引き続いて生徒が主体的に取り組める場面を多く作ることで、“定期試験には準備し、成績の向上に努めている”が65%と低いので、試験前に実施している補習の利用を呼びかけたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>個々に応じた指導の成果が授業評価に表れていると思う。今後とも丁寧な指導をお願いしたい。生徒の個々の目標設定の大切さやそれを維持していくことの大切さを今後とも指導して欲しい。「分かる授業」が生徒の「達成感」につながり、それが「自己肯定感」を高めていく大きな要因となるので、授業研究や工夫に今後とも努めて欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>生徒に達成感を持たせるために ICT 機器を用いた授業を展開するとともに、個々に応じた目標を設定し、その達成に向けた教材研究や授業展開を心掛ける。家庭学習の時間が不足しているので、授業の中での達成感や理解度を高める授業展開を心掛けるとともに、定期考査前の補習授業の効果的な活用を促していきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者への働きかけを行う。	意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B	2月に実施した生徒への意識調査では、意識して欠席遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合は55%、意識していないが欠席・遅刻・早退が少ないと回答した生徒が15%で、合計70%が欠席・遅刻・早退の少ない生徒である。また、意識して取り組んだが、欠席・遅刻・早退を減らすことができなかった生徒の割合は15%で、これらの生徒の多くは、基本的な生活習慣に問題があり、その改善を含めた指導が必要であると思われる。
	② 各種教室（非行防止教室、薬物乱用防止教室等）の開催により規範意識を高めるとともに生徒会の活動を通してルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A	本年度の問題行動は、前期4件発生したが、それ以後は起きていない。規範意識を高めるための各種教室の開催や未然防止のための早期対応が効果的であったと考えられる。 2月に実施した生徒への意識調査では、ルールやマナーを守って学校生活を送っていると回答した生徒の割合は90%で、ほとんどの生徒は意識して取り組んでいるが、実際の活動の様子を見ると、まだ不十分な点があるので、継続した指導が必要である。
学校関係者評価委員会の評価	生徒の問題行動が6月以降発生せず、生徒の生活も徐々に落ち着きを見せているのは粘り強く丁寧な指導の成果である。今後とも望ましい生活習慣を身に付けられるような指導をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	問題行動の減少は毎日の生徒に関する情報交換を実施することで、情報の共有化や早急な対処が可能となった成果であり、今後とも継続したい。 学校生活や家庭での様子を保護者と密接に連携を取り、協働して生徒の生活習慣の確立を目指す。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	<p>現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が</p> <p>A 80%以上である</p> <p>B 60%以上である</p> <p>C 40%以上である</p> <p>D 40%未満である</p>	C	<p>就業していなかった生徒15名のうち、アルバイトに取り組んだ生徒は7名であった。インターンシップは希望者がいなかった。割合は47%であった。2年生以上の生徒については、当初よりほぼ就業していたため増加はわずかであった。1年生では8人中5人で63%であった。進路講話や企業見学などの全体活動での生徒の感想は前向きなものが多かった。来年度へ向けて、より個別の状況に応じた指導を行って、現在未就業の生徒や来年度入学生への進路意識の高揚に努めたい。</p>
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	<p>就職・就業体験を受け入れてもらった会員企業が</p> <p>A 7社以上である</p> <p>B 5社以上である</p> <p>C 3社以上である</p> <p>D 3社未満である</p>	A	<p>教育振興会総会の案内にあわせインターンシップ受入の可否を調査した。中能登町役場ほか8つの企業から受入可能との返事をいただいた。今年で2年目の取り組みであるが、会員企業の協力のおかげで職場見学を実施することができた。今年度会員企業への就職者はいなかったが、今後も協力をお願いしたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>インターンシップやアルバイトなどを通じて、将来の職業選択に必要な「コミュニケーション力」や「生きる力」を身に付けさせて欲しい。</p> <p>個々の指導だけでなく、集団の中で活動できるような指導を工夫し、得意なことを見つけることができる機会を与えて欲しい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<p>企業見学やインターンシップを実施するとともに、卒業生による就職講演会やジョブカフェ石川や企業ガイダンスなどに積極的に参加しながら、求められる資質や人材像を意識させ、就業への意欲・関心を高めたい。</p> <p>個々の進路実現に向けて様々な情報を提供し、目標達成に向けて早い段階から指導を深める。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 給食を通して望ましい食習慣を身に付けさせ、基本的生活習慣の定着を図る。	① 食事のマナーやより良い食生活の習得のため、給食時に個別指導を行う。また、通信による情報提供を行う。	給食摂取率 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C	毎日の給食摂取記録より、給食を食べない生徒に対して理由をたずね、給食の利点等を説明した。また、できるだけ1日2回の給食の時間を設け機会の確保を行った。しかし、9月までの平均摂取率75%が1月末で74%と低下した。 次年度においては、給食の摂取はもちろんのこと、食に関して全般的な取り組みが大切である。
学校関係者評価委員会の評価		食事回数だけでなく、食事そのものの必要性を早い段階から指導することが望ましい。食生活の乱れを正すには家庭の協力が不可欠である。家庭での摂食時刻や回数など連携や調査を重ねながら、食生活の改善に取り組んで欲しい。食事ではなく、お菓子などで済ませている生徒もいるのではないか。実態把握に努めて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		来年度は年3回の学校栄養士による講演を予定している。その中で、食事や栄養素、食事の取り方などを指導する予定である。アンケート方式で食事回数や摂取時刻の調査など、実態把握に努めるとともに、歯磨き指導を通して口腔ケアの重要性についても指導していく。		